

《 予防接種を受ける前に 必ずお読み下さい 》

成人の带状疱疹予防接種説明書

1 带状疱疹とは

带状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した 水痘带状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに帯状に、時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「带状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。

带状疱疹は、70 歳代で発症する方が最も多くなっています。

2 带状疱疹ワクチンとは

带状疱疹ワクチンには生ワクチン（阪大微研：乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」）、組換えワクチン（GSK 社：シングリックス）の2種類があり、接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なりますが、いずれのワクチンも、带状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

	生ワクチン（阪大微研）	組換えワクチン（GSK 社）
接種回数 （接種方法）	1 回（皮下に接種）	2 回（筋肉内に接種）
接種 スケジュール		通常、2 か月以上の間隔を置いて2 回接種 ※病気や治療により、免疫の機能が低下したまたは低下する可能性がある方等は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1 か月まで短縮できます。
接種できない方	病気や治療によって、免疫が低下している方は接種出来ません。	免疫の状態に関わらず接種可能です。
接種に注意が必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3 か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6 か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。

3 带状疱疹ワクチンの効果

	生ワクチン （阪大微研）	組換えワクチン （GSK 社）
带状疱疹に対するワクチンの効果（報告）	接種後 1 年時点	6 割程度の予防効果
	接種後 5 年時点	4 割程度の予防効果
	接種 10 年時点	—
		7 割程度の予防効果

※ 合併症の一つである、带状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3 年時点で、生ワクチンは6 割程度、組換えワクチンは9 割以上と報告されています。

4 带状疱疹ワクチンの安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、生ワクチンについては、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎が、組換えワクチンについては、ショック、アナフィラキシーがみられることがあります。

接種後に気になる症状を認めた場合、接種した医療機関へお問い合わせください。

主な副反応の発現割合	生ワクチン（阪大微研）	組換えワクチン（GSK 社）
70%以上	—	注射部位の疼痛
30%以上	注射部位の発赤	注射部位の発赤 筋肉痛、疲労
10%以上	注射部位のそう痒感・熱感・腫脹・疼痛・硬結	注射部位の腫れ 胃腸症状、悪寒、発熱
1 %以上	発疹、倦怠感	注射部位のそう痒感、倦怠感、全身疼痛

5 他のワクチンとの同時接種・接種間隔

いずれの带状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。

ただし、生ワクチン（阪大微研）については、他の生ワクチンと 27 日以上の間隔を置いて接種してください。

6 接種対象者

(1) 令和 7 年度中に以下の年齢になる方（以下の誕生日の方）

65 歳（昭和 35 年 4 月 2 日～昭和 36 年 4 月 1 日）

70 歳（昭和 30 年 4 月 2 日～昭和 31 年 4 月 1 日）

75 歳（昭和 25 年 4 月 2 日～昭和 26 年 4 月 1 日）

80 歳（昭和 20 年 4 月 2 日～昭和 21 年 4 月 1 日）

85 歳（昭和 15 年 4 月 2 日～昭和 16 年 4 月 1 日）

90 歳（昭和 10 年 4 月 2 日～昭和 11 年 4 月 1 日）

95 歳（昭和 5 年 4 月 2 日～昭和 6 年 4 月 1 日）

100 歳（大正 14 年 4 月 2 日～大正 15 年 4 月 1 日）

101 歳以上（大正 14 年 4 月 1 日以前の生まれの方※）

※100 歳以上の方については、令和 7 年度に限り全員対象となります。

(2) 60～64 歳でヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害があり日常生活がほとんど不可能な方。

7 予防接種を受ける前に

(1) 一般的注意

带状疱疹予防接種について、気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に医師に相談しましょう。

予防票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。基本的には、接種を受けるご本人が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない方

①明らかに発熱している方（一般的に、体温が 37.5℃を超える場合）

②重い急性疾患にかかっている方

③各々の予防接種の接種液の成分によって、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな方

④本人の接種希望の有無が確認できない場合

（带状疱疹予防接種は、本人の希望があった場合のみ、接種を行います。）

⑤その他、医師が不適当と判断した場合

(3) 予防接種を受けるに際し、担当医師との相談が必要な方

①心臓病、じん臓病、肝臓病や血液疾患、その他基礎疾患を有し、治療を受けている方

②過去に予防接種を受けて 2 日以内に発熱、全身の発疹などアレルギーを疑う症状の見られた方

③過去にけいれんをおこした方

④過去に免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる方

⑤接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方

8 予防接種を受けた後の一般的注意事項

①予防接種を受けた後 30 分間は、嘔吐など急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）と、すぐに連絡を取れるようにしておきましょう。

②接種当日の入浴は支障ありません。激しい運動や過度の飲酒は避けてください。

9 予防接種健康被害救済制度

带状疱疹の予防接種による健康被害に対し、厚生労働大臣が予防接種との因果関係を認定した場合、市では健康被害に対して給付を行う制度があります。

北本市健康づくり課 健康推進担当

電話 594-5545（土日祝日を除く 8:30～17:15）